

児童生徒の心の育ちを 支援するために **Part2**

不登校への対応

～チーム対応と上手な登校刺激～



登校刺激とは？

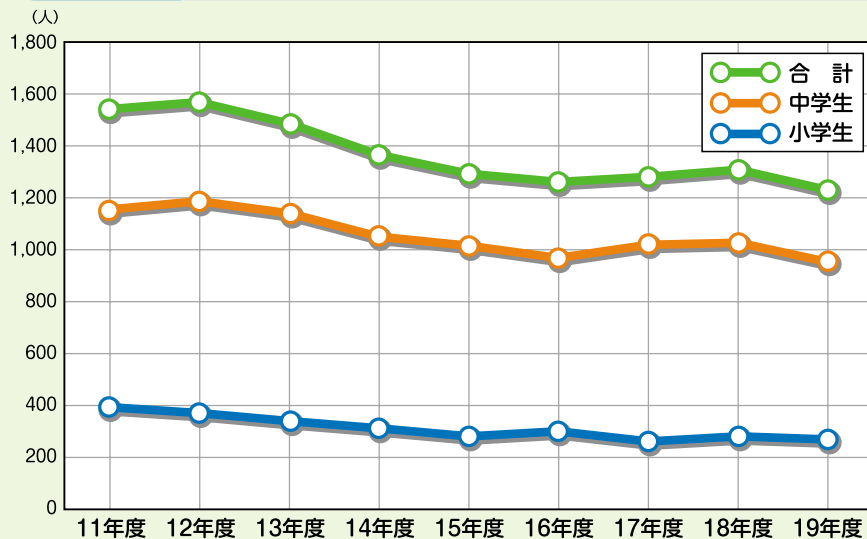
登校刺激とは、「学校に行きなさい」と叱責したり、嫌がる子どもを無理に学校へ連れて行ったりすることではありません。学級便りを届けることや、「今、運動会の練習をしているよ」「校庭のツツジの花がきれいに咲いたよ」と学校の様子を伝えることなど、先生が家庭訪問すること自体が登校刺激になります。

適切な時期に適切な登校刺激を与えることは、学校への復帰に向けてとても大切なことです。

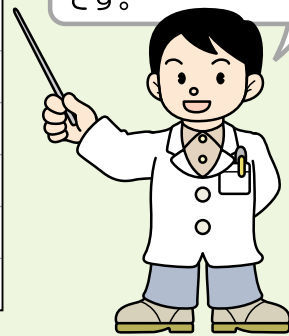
いつ、どのような登校刺激を、どのように与えるか、子どもの状況をよく見て、その反応に十分留意しながら組織的に取り組んでいくことが重要です。

1 小・中学生の不登校の実態

資料1 不登校児童生徒の推移 〈本県（公立小・中学校）〉



平成19年度の不登校児童生徒数は、81名減少しましたが、依然として大きな課題です。



(人)

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
小学生	395	373	346	314	280	297	265	281	272
中学生	1,150	1,198	1,138	1,051	1,014	968	1,021	1,030	958
合計	1,545	1,571	1,484	1,365	1,294	1,265	1,286	1,311	1,230

資料2 不登校のきっかけ

不登校であった生徒の声

- ① 友人関係をめぐる問題 45.0%
- ② 学業の不振 27.9%
- ③ 教師との関係をめぐる問題 21.0%
- ④ 部活動への不適應 16.7%
- ⑤ 入学・転校・進級時の不適應 14.4%
- ⑥ 病気による欠席 13.4%
- ⑦ 親子関係をめぐる問題 11.5%
- ⑧ 特に思いあたることはない 11.0%

(複数回答)

平成5年度に「学校ぎらい」を理由に年間30日以上欠席し中学校を卒業した者を対象に、文部科学省が研究グループ「現代教育研究会」に委託を行い、平成13年度に追跡調査した結果を公表しました。

資料3 効果的な学校の措置

- ① 家庭訪問を行い、学業や生活面での相談に乗るなどの指導・援助を行った。
- ② 登校を促すため、電話をかけたり迎えに行ったりなどした。
- ③ 保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
- ④ スクールカウンセラー等が専門的に指導にあたった。
- ⑤ 保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった。
- ⑥ 不登校について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。



先生方ががんばりが、効果を上げています。

(「平成19年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より)

2 不登校を予防するための手だて

- 不登校は、多くの場合予兆を示します。その予兆を見逃さず、**登校しているうちに適切な対応**をすることが大切です。
- **欠席し始めてから3日までの対応**が、不登校の予防に効果的です。

欠席に敏感になる

- ① 欠席したその日のうちに様子を聞き、心配している気持ちを伝える → **明日の連絡とともに！その日のうちに！**
- ② 1か月の欠席日数が3日以上ある児童生徒への対応について、協議する場を設ける → **チーム対応**
- ③ 欠席者を記入する小黒板を職員室に設置する等、欠席状況を全教職員が把握できる工夫をする → **みんなで見守ろう**
- ④ 前年度までの欠席日数や理由等を把握しておく → **子ども理解を深めよう**

早期に発見し、早期に対応する

欠席した児童生徒の場合

欠席連絡を受けた場合、電話対応マニュアル（H19作成リーフレット）を参考に対応を行う。

- ① 欠席した児童生徒の情報を整理する。
- ② 必要ならば、家庭訪問の準備をする。

家庭訪問の実施

【不登校の予兆と思われる場合】

- ① チームで早急に対応等について協議する。
- ② 個人支援カード等に記録として残す。

気になる児童生徒の場合

☆不登校の予兆をチェックする

- 特定の曜日に欠席・遅刻・早退が多い
- 体調不良をよく訴える
- 最近1か月で、明らかな病欠以外の欠席が1日以上ある
- 保健室への出入りが増える
- 部活動を休みがちになる
- 表情が暗くなる
- 学習の遅れがみられる
- 友人関係でトラブルがある
- 忘れ物が多くなる
- ⋮
- ⋮
- 等

複数の項目にチェックが付く場合

- ① 観察を続け、情報収集を行う。
- ② 意識して声かけや関わりを多くする。
- ③ 保護者と連携する。

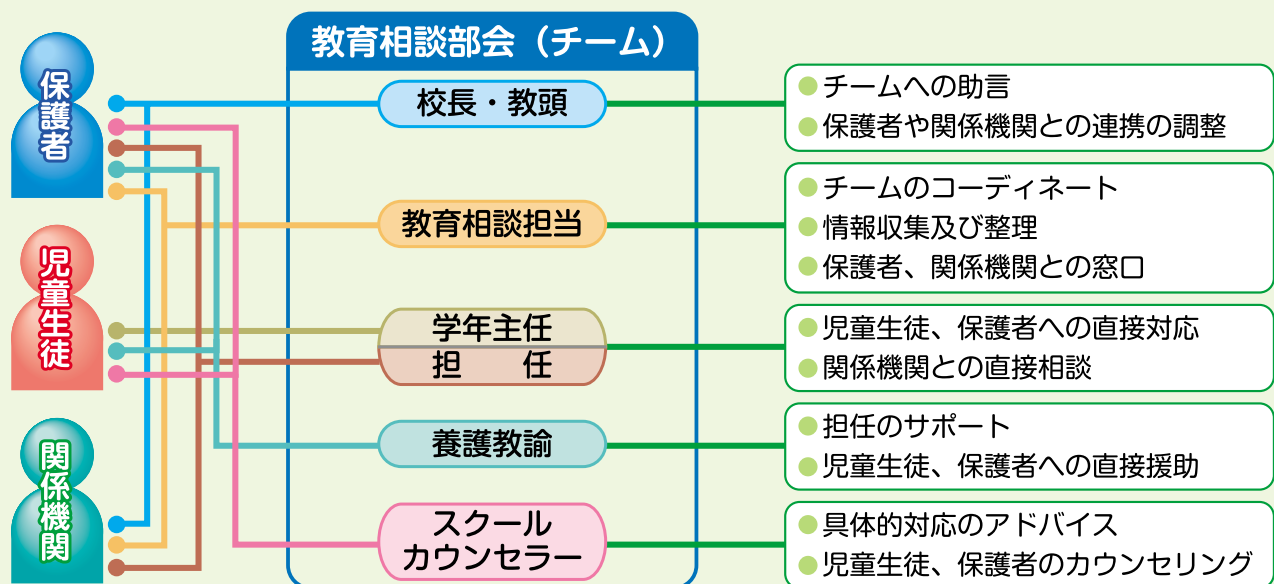
3 小・中学校の支援体制づくり

チームで対応を！

小学校においては、不登校や問題行動への対応を担任一人でがんばるケースが多くみられます。そのため、十分な情報が収集できなかつたり、児童生徒や保護者との関係がうまくつくれず、事態が深刻化することもあります。また、自責の念にかられて、担任自身が疲れてしまう例もあります。

中学校においては、担任が生徒と接する時間が限られるため、様子の変化に気づきにくかつたり、小学校との連携が希薄だったために情報が共有されていなかつたりする例があります。

チーム体制の例



チーム体制のポイント

チーム対応の内容について、定期的に全教職員で共通理解すること。

構成メンバーは、学校の実態に応じて編成し、多すぎないこと。

個人の責任追及、批判はしないこと。

担任以外の者がコーディネーターになり、メンバーの役割を明確にすること。

チーム対応のポイント

ステップ1 → チームで支援会議を開き、いつ、だれが、何を、いつまで支援するかを協議し、対応を始める。

ステップ2 → 基本的には担任が家庭訪問を行い、家庭での様子や本人の気持ちを聞く。
本人と会えない場合は、無理に会おうとせず家族とのよりよい関係づくりに努める。

ステップ3 → 短いサイクルで、情報の整理や支援の評価、次の支援内容等について確認する。

ステップ4 → 必要に応じて関係機関等との連携を図る。

ステップ5 → メンバー間の円滑な人間関係を築く。

4 上手な登校刺激の与え方

登校への促しは、児童生徒の状況や不登校となった要因・背景等を適切に把握した上で行うことが大切です。不登校の背景には様々な要因がありますから、どのような不登校であっても、全て登校を促す、あるいは促さない等の画一的な対応はよくありません。また、直接的に登校を促さない状況にある場合であっても、あきらめずに児童生徒と関わりをもととする姿勢をもつことが大切です。

(不登校問題に関する調査研究協力者会議報告書 平成15年6月)



まず、児童生徒との信頼関係を築くことが大切です。児童生徒と遊んだり雑談をしたりすることが、思わぬ効果を発揮します。

3つのポイント

1 小出しにする

できるだけ小さな話題から順番に提示する。いきなり「明日から登校するかどうか決めなさい」というような大きな問題を突きつけると、子どもは混乱するばかりです。まずは、例えば「学校の門のところに紫陽花が咲いたよ」とか、「今日は大掃除があつてね」など、あまり核心に迫らない話題をそっと出して、本人の様子を見るところから始めたほうがよいでしょう。そのような話題にあまり抵抗がないようであれば、少し進めて「そろそろ中間試験も近いのだけれど…」などと言って、様子を見ながら次に進むというようにすると、本人を傷つけたり追いつめたりすることも少ないといえます。

2 反応を見て、柔軟に変える

登校刺激が有効であるかどうかは、その時の反応によって判断しなければなりません。「今度校外学習があるんだけど」と言ったとき、子どもが「ふうん」とか「行くかどうかわからない」などの反応をすれば、まずは大丈夫でしょう。「じゃあ、無理に行かなくてもいいけれど、班のメンバーに入れておくからね」など、次の段階に進みます。

しかし、突然暗い顔になったり、ずっとその場から立って自分の部屋に行ってしまったりしたときは、まだその話題は早すぎるということです。そう感じたら「あっ、ごめん。その話はやめようね」と、さっさと切り上げることです。そうすれば心の傷を深めることはありません。

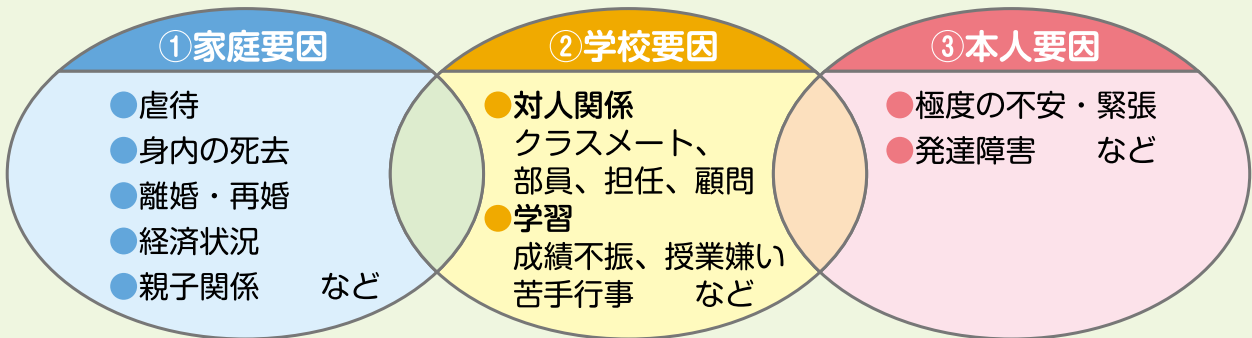
3 効果については翌日確かめる

登校刺激になるような話題を持ち出したときは、たとえその時に調子が良さそうでも結果を確かめておくことが必要です。次の日に家庭に電話をして、保護者に前日の様子を聞きます。特別に不機嫌でもなく、普通に過ごせていれば成功といえます。しかし、家庭訪問の後、周囲に当たったり暴れたりしていたら、刺激が強すぎたといえます。数日から1週間はそっとして様子を見て、登校刺激の内容を考え直す必要があるかもしれません。それから再度試みるということになります。しかし、1回反応が悪かったからといって、何日も何週間もそのままにしておくことは好ましくありません。

(平成20年度きのくに子ども自立支援フォーラム 小澤美代子教授の講演資料より)

5 不登校の要因

1 不登校のタイプ



不登校であった生徒の意見をみると、不登校のきっかけとして学校要因が多くあげられています。これまでの指導や取組を再度見直し、より工夫改善することで、不登校の予防につながると考えられます。

まず、学校でできることから始めよう！

2 不登校の始まり方

① 急性型

それまで特別な不適應もなく過ごしていた児童生徒が、何かの出来事をきっかけに、急に不適應状態に陥り不登校になるケースです。このようなときは、担任、部活顧問、養護教諭等関わりのある者が急激な変化を敏感にキャッチするとともに、児童生徒の心に共感し、家庭訪問や個人面談、補習等心の負担を軽くする対応を積極的かつ早急に実施する必要があります。

家庭要因 家族との死別や離婚、再婚等、家庭状況の急変による精神的混乱

学校要因 成績の急低下、いじめ、友人とのトラブル

本人要因 思春期の不安や葛藤

対応

- 急激なダメージによりエネルギーが低下している場合、とりえず休養が必要となることもあります。
- できるだけ早く要因を探り、具体的な対応策を考えます。
- 初期対応を適切にすれば、回復も急速に進むことがあります。

② 慢性型

日頃から休みがちだと思っていた児童生徒が、特に大きなきっかけもなく、気づいたら登校できなくなっていたケースです。通常の指導の中で、継続的に学習の遅れへの手だてや人間関係力の育成などの支援を行うことが求められます。

家庭要因 無関心や学校へ行かせないなどの虐待

学校要因 学習の遅れ、人間関係力の弱さ

本人要因 発達障害、無気力

対応

- 気力やコントロールする力が弱いので、必要な支援をしながら少しがんばらせたり体験させたりして力を付けます。
- 本人が拒否しなければ、迎えに行ったり家庭訪問したりすることも有効です。
- 保護者に生活援助の具体的な情報を提供して改善する場合があります。
- 現状を維持しつつ、少しずつ向上していくような継続的な関わりが必要です。

6 不登校改善事例

事例 1 慢性型、本人要因

小学校第6学年のAさんは、体調が悪いということで4年生の2学期から登校できなくなりました。当初、担任は毎朝誘いに行ったり、放課後に家庭訪問したりしましたが、本人に会えない日が続き、次第に連絡が途絶えていきました。

初期対応

- Aさんに関する前学年までの様子等の情報収集を行う。
- 新担任は、家庭訪問をして、家族も含めた関係づくりに取り組む。
- 教育相談部会で関係機関との連携等の方針を決める。

回復に時間がかかるケース

取組

- 1、2週間に1度程度の家庭訪問を続け、Aさんの状況に応じて、興味のある話題を提示する。
- できるだけ早い段階から状況に応じて、中学校入学に向けた学力支援を行う。
- 中学校と連携し、入学後の対応を協議する。
- 定期的に保護者と話をする。

ポイント

- 登校刺激の時期を適切に判断する。 → 保護者と連携した取組を続ける。
- 子どもの状況に応じて登校刺激の内容を工夫する。 → 話題転換、学力支援等
- 登校後の対応まで考えて行動する。 → 小中の連携

事例 2 急性型、学校要因

中学生のBさんは、第2学年になってから休みがちになってきました。担任が本人に理由をたずねますが、よく分かりません。気になって家庭訪問をしたところ、母親から、部活動で友人関係のトラブルが起こり、不登校寸前であることを知らされました。

初期対応

- 担任は、部活動顧問と事実確認を行う。
→ 他の教員や周辺の生徒からの聞き取りもそれとなく行う。
- 家庭訪問をして保護者と話し合う。 → 情報収集する。
- スクールカウンセラー等と連携し、支援体制を整える。

早期回復が望めるケース

取組

- 学級や部における集団づくりを見直す。 → Bさんへの受け入れ態勢を整備する。
- 家庭訪問をして、Bさんとの関係維持に努める。
- 支援チームで、Bさんの復帰プログラムを作成する。

ポイント

- 早期発見・早期対応に努める。
→ 子どもの変化を敏感にキャッチし、おかしいと感じたら行動する。
- 家庭訪問をして保護者と話し合う。
→ 子どもや保護者の不安な気持ちに共感し、信頼関係をはぐくむ。
- チームで役割を決め、計画的に対応する。

7 小中連携の手だて

いわゆる「中1ギャップ」に陥る生徒の半数近くは、小学校時に不登校経験があります。小学校時のその生徒の様子や対応の内容等を中学校へ正確に知らせることで、中学校での適切な支援につながります。

不登校において、小中の連携を推進する手だての1つとして、小中連携シートの活用が効果的です。

小学校卒業時に作成します

未然防止・早期対応に活かそう！

取扱注意		平成20年度版						
小中連携支援シート(不登校)		6年 組 番		小学校				
(ふりがな) ()		男 ・ 女						
氏名		記入者名:		(担任・旧担任・その他)				
		進学先中学校						
各 学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
欠席日数	日	日	日	日	日	日		
遅刻日数	4年	5年	6年	別室・放課後登校	4年	5年	6年	
	日	日	日	日数	日	日	日	
◎ (長期)欠席の理由・きっかけ ※複数回答可								
<input type="checkbox"/> 病気・身体の不調 () <input type="checkbox"/> 友人との関係の問題 <input type="checkbox"/> 教師との関係の問題 <input type="checkbox"/> 学業上の問題								
<input type="checkbox"/> 学校環境の変化 <input type="checkbox"/> 家庭環境の変化 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 不明								
◎ 登校に対する本人の意欲 : <input type="checkbox"/> 積極的 <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 消極的 <input type="checkbox"/> わからない								
◎ 登校に対する保護者の意欲 : <input type="checkbox"/> 積極的 <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 消極的 <input type="checkbox"/> わからない								
◎ 学習への現在の意欲 : <input type="checkbox"/> 積極的 <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 消極的 <input type="checkbox"/> わからない								
◎ 行動や様子 ※複数回答可								
<input type="checkbox"/> まじめ <input type="checkbox"/> 友達が多い <input type="checkbox"/> 頑張ることができる <input type="checkbox"/> 周りの刺激に敏感である <input type="checkbox"/> 孤立感がある								
<input type="checkbox"/> 内向的である <input type="checkbox"/> 緊張しやすい <input type="checkbox"/> 自己中心性がある <input type="checkbox"/> 幼稚さがある								
<input type="checkbox"/> ストレスに対して逃避的である <input type="checkbox"/> 楽観的である								
<input type="checkbox"/> おとなしい <input type="checkbox"/> 感情の起伏が激しい <input type="checkbox"/> 不快な感情を表現することが苦手 <input type="checkbox"/> 落ち着きがない								
<input type="checkbox"/> 穏やかである <input type="checkbox"/> 集団もしくは小集団での遊び(活動)を好まない								
<input type="checkbox"/> 人の気持ちを理解することが苦手 <input type="checkbox"/> 新しい環境が苦手 <input type="checkbox"/> 該当なし								
<input type="checkbox"/> その他 ()								
◎ その他 ※複数回答可								
<input type="checkbox"/> 保健室によく行く <input type="checkbox"/> 相談室によく行く <input type="checkbox"/> 別室登校 <input type="checkbox"/> いじめに関係した経験がある(加・被)								
<input type="checkbox"/> 茶髪・異装等 <input type="checkbox"/> 深夜徘徊・家出 <input type="checkbox"/> ADHD LD 高機能自閉症 アスペルガーもしくはその傾向(疑)								
<input type="checkbox"/> その他 ()								
◎ 学校生活での様子:				◎ 学習面での特徴:				
◎ 身体・成長について(分かる範囲):								
◎ 家庭の状況及び生育歴(分かる範囲):								
◎ 連携について ※複数回答可								
<input type="checkbox"/> 該当なし								
<input type="checkbox"/> 県・学びの丘 担当者: <input type="checkbox"/> 医療機関 () <input type="checkbox"/> その他 ()								
担任記入欄	◎ 本見に対して行った工夫や配慮・支援				◎ 中学校にお願いしたいこと			
記学入校欄長	◎ 本見に対して行った工夫や配慮・支援				◎ 今後期待する指導や支援等			
				学校長 印				

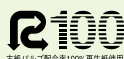
(東京学芸大学の小林正幸教授が考案された支援シートをもとに作成)

リーフレットに関する問い合わせ先

和歌山県教育庁学校教育局小中学校課

TEL : 073-441-3651

FAX : 073-441-3652



古紙100%配合率100%再生紙使用。このリーフレットは環境に配慮し、古紙配合率100%再生紙と大豆油インキを使用しています。